「飼い葉桶の救い主」（救い主降誕のできごと⑥）

ルカの福音書２章１～７節

救い主の降誕のできごとについて「すべてのことを初めから綿密に調べて」(1:3) 記録したルカは、イエスキリストが「ダビデの子」として、「ダビデの町」でお生まれになった経緯を書き記しています。

その中で、「宿屋には彼らのいる場所がなかったからである」との説明にはいったいどういう意味があるのでしょうか。それまで起こった事実を淡々と書いていたルカが、最後になってこのような説明を書いたのはなぜなのでしょうか。

①「ダビデの町」で生まれることが約束されていた

“ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。” 旧約聖書ミカ書（イエスキリストの降誕より 700 年余前にしるされた書物）5:2

“彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。『ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。』」” マタイ 2:5-6

②「ダビデの子」として生まれることが約束されていた

“エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。その上に主の霊がとどまる。” 旧約聖書イザヤ書（ミカ書と同じ頃に記された書物）11:1-

“この福音は、神がご自分の預言者たちを通して聖書にあらかじめ約束されたもので、御子に関するものです。御子は肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。”
ローマ 1:2-

③ 私たちすべての者の救い主であることが約束されていた

“マリアは月が満ちて、男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。” 2:6-7

“今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」” 2:11-12

“御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。” 2:15-16

◎思い巡らしてみましょう

・イエスキリストに対する信仰は長い歴史をまたがって実現した歴史的事実の上に立っています。私たちの信仰は自分の限りある知識や思いによって小さなものになっていないでしょうか。